

会報 峠 とうげ

河井継之助記念館
友の会会報

第7号

2010.03

編集・発行
河井継之助記念館
新潟県長岡市長町1丁目1675-1
〒940-0053
Tel.0258-30-1525
Fax.0258-30-1526

頒布価50円(送料別)

長岡藩の幕末の銃器

—長岡藩士は何を手に戊辰を戦ったのか—

河井継之助記念館友の会理事 星 貴



河井継之助の箴言の前にて(星さん宅)



長岡藩士松井策之進と兵士

長岡藩は、戊辰戦争にどのような銃を使用していたのか、今までも全国の戦史研究家の検証が繰り返されてきた。大半が「長岡藩は、先込めミニエー銃であろう」という見解のようだ。しかし、理由として「長岡藩のような小藩の家老であった河井継之助は、武器商人からアメリカの南北戦争で使い古された旧式銃を高く売りつけられたのだから。」というような言い回しの

憶測に過ぎない見方をしているように思える。司馬遼太郎が長岡藩の銃を「元込めのミニエー銃」と表記していることへもかなり否定的に見ているようだ。

注目したいのは「長岡藩士松井策之進と兵士」の写真である。おそらく撮影できる時期を考えても河井が新式銃で揃えた慶応三年(八六七)暮れ以降とは考え辛く、慶応二年(八六六)の第二次長州



ファブルプラントの領収書

九月にファブルプラント社で河井が購入した書籍の領収書を見ると、

「一八六五年型アリン式のスプリングフールド銃を運用する教範(エモリー・アプトン中佐が一八六七年に記した歩兵操典)を買った記録がある。この銃は米国が南北戦争終了後に導入した元込め銃で、ガトリング砲と同じ五十八口径(約十五ミリ)というところが弾丸の互換性を考えても注目したい点だ。他にも南北戦争で北軍が終盤正式採用したシャープス騎銃(元込め)を百丁購入しているという記録もある。この銃の事は司馬遼太郎が河井継之助を主人公にした著作「英雄児」のなかでスネルが盛んに河井に進める場面を描いている。司馬遼太郎がいかに多くの資料を調査し執筆していたかが伺える。

スネル兄弟は奥羽越列藩同盟に對し好意的に盛んに新式銃を売り込んでいた。特に庄内藩には河井の仲介で新式銃の入荷を薦めていた。河井が自分の持たない銃を人に薦めるだろうか。河井の先見性を信じて私としては「スネル等、死の商人」に騙され、南北戦争の払い下げの旧式銃を高く売りつけられた」とするこれまでの推察や「慶応三年暮れに長岡藩は正式配備したのは先込めの旧式ミニエー銃」という意見には反論したい。

南北戦争を舞台に開発が進められた当時最新の武器であった連発銃やガトリング砲は、北軍の兵器

から慶応三年(八六七)にかけて頻繁に長岡藩は様々の銃を仕入れている。

ほとんどが剣(銃剣)付き筋入り(ライフリング付き)の銃で、中には六連発の銃の記録もある。長岡藩が新式銃で揃えたのは慶応三年(八六七)の十二月だが、それ以前にかなり兵器の研究が進んでいたことが伺える。では、その時河井は戊辰戦争に備えファブルプラントやスネルからどんな銃を手に入れていたのか。慶応三年(八六七)九月にファブルプラント社で河井が購入した書籍の領収書を見ると、

この写真に写る銃はエンフィールドショートライフル銃だが、遊底の付近をよく見ると蝶番(ちょうがひ)の位置が異なる。いづれにしてもこの時点でミニエー銃を所持していたといえる。群馬の猿ヶ京の関所の記録によれば万延元年(八六〇)から慶応三年(八六七)にかけて

納入係のリプリー准将の保守的な考えに阻まれ、行き場を失い、一八六五年に南北戦争が終結すると市場を内乱直前の日本に求めた。戊辰戦争、特に北越戊辰戦争は最新兵器の実験場、武器博覧会のような場であったに違いない。

星 貴(ほしたか)プロフィール
昭和35年(1960)長岡市生まれ。株式会社大坂屋書店、ユウセイプランニング代表取締役社長。山本元帥景仰会理事。長岡ガトリング砲研究会会長として、ガトリング砲復元に尽力。幕末の銃器や軍装、太平洋戦争などを中心に研究している。

今年で三回目を迎えた新春コンサート。ギターが奏でる物悲しく切ない響きと朗々とした語り。その傍らには望遠鏡を片手に空をキツと見据える継之助像が立つ。およそ百五十年前、暮れも押し迫った十二月二十七日―雪の中、江戸を目指し旅立った。足るということに慣れきった現代人には想像もできない道程であったろう。まさに命懸けの旅といえる。豪放さ何事にも屈せぬ信念を持ち「武士」という生き方を貫いた継之助だからこそなしたことはなかるか。あの時と同じように、継之助に思いを馳せたこの夜も雪は降り続いていた。(西川)

峠抄 ● とうげしょう ⑥

『峠』の越後長岡を歩く

5 連載

司馬遼太郎の『峠』に描かれている「越後長岡」の風景を現在に訪ねるシリーズ。今回は長岡市民憩いの場、悠久山を歩いてみました。

●『峠』上巻、新潮文庫456ページより
いま座敷で踊りだしたのは、その得意の盆踊りなのである。
芸者が長岡甚句をうたった。

アッサ お山の千本桜

花は千咲く なる実は一とつ

九百九十九は ソリヤ

無駄の花

アアヨシタヨシタ

継之助が大好きだった盆踊り。その中のひとつ長岡甚句は現在でも長岡まわりの民謡流しや町内の盆踊り大会などで毎年踊られています。その歌詞に出てくる「お山」とは悠久山のこと。長岡甚句と同じく江戸時代から長岡の人々に親しまれている里山です。

悠久山は長岡の中心地より東へ約四キロのところにある標高1000メートルほどの山で、もとは三官山といいました。天明元（一七八）年、越後長岡第九代藩主牧野忠精が第三代忠辰を祀った蒼柴神社をこの地に造営した時に『中庸』の二節からとって「悠久山」と命名し、境内に「千本桜」といわれる桜を植えたと言われています。

江戸時代すでに悠久山はお花見の名所でした。元長岡藩士・小川

當知が江戸時代の長岡の年中行事を文と絵で記した『長岡城之面影』には三月の項に「下旬頃より悠久



悠久山公園内にある河井継之助の碑。題額は黒田清隆、碑文は三島中州によるもの。



悠久山公園

池を挟み東西二つの山からなる悠久山。約8万坪の公園地内には郷土長岡の偉人碑、記念碑などが数多く見られる。

蒼柴神社参道の桜並木

山の花見」とあります。若者からお年寄りまで沢山の人がお弁当やお酒を持って集まり、日暮れを惜しんでお花見を楽しんだことが書かれています。また、絵には露店や敷物の上に座る人々の姿が描かれており、お花見のスタイルは昔からあまり変

わっていないことが分かります。

千本桜は戊辰戦争の後に枯れて倒れたりしましたが、明治三十八（一九〇五）年に牧野忠篤子爵により千本が補植され、大正六（一九一七）年、長岡開府三百年を記念して還暦を過ぎた経済界有志によって結成された「令終会」が整備をし、悠久山公園が出来た時に池やグラウンドの周りにも増植されました。現在、悠久山の桜はソメイヨシノや八重桜など合わせて、実際には約二千五百本になっています。

自然が多く残された悠久山公園

内には遊具や小動物園などもあり、例年四月になると「悠久山桜まつり」が開催され、江戸時代と同じように大勢の花見客で賑わいます。さらに日暮れ後提灯のあかりのもと夜桜を楽しむこともできるようになりました。

雪国長岡の寒く長い冬が終わると「お山」に桜の季節がやってきます。

（権澤）

参考文献

- 『長岡歴史事典』（長岡市）
- 『長岡市史双書 No.44 長岡城之面影―長岡城下年中行事』（長岡市）
- 『悠久山』（長岡青年会議所）

河井継之助の生涯その一 ●パネル紹介



始まり、長岡十八か町から花屋台十五台と囃子屋台三台が夕方まで町内を練り歩いた。翌十五日未明神田口御門外に集合。太鼓の合図で槍・神馬を先頭に、社人・花屋台・囃子屋台の行列が城門へ入った。この行列図は先頭の神馬の様子を表している。やがて大手御門から町口御門に出て通りの町々を引き歩き、夕刻蔵王権現社に到着。社殿を三周した後、流鏝馬の神事が行われる。十五日は民衆も城内に入ることを許されたので大勢の参観者が詰めかけ賑わったという。現在でも流鏝馬の神事は古式に則り行われている。（神保）

参考文献

- 『ふるさと長岡のあゆみ』（長岡市）
- 『長岡歴史事典』（長岡市）

「蔵王大祭屋台行列図」飯島文常画
江戸時代長岡最大の祭りは蔵王権現社（現金峯神社）のものであった。祭礼の二つに旧暦六月十五日を本祭日とする大祭がある。毎年祭馬五頭と長柄の槍二十筋を藩主が献納。祭りは前日から



「河井せんべい」に関する有力情報集まる!

会員による、会員のための、会員をつなぐ情報誌『峠』。読者から寄せられた情報を報告します!

ことの発端

長岡市内の骨董品店にて「河井せんべい」の箱を発見。

「会員のみなさんから情報を集めてみてはどうだろうか?本に書かれていないことがわかるかも……!」

そして……ついに有力情報!

提供者 ● 渡辺静江さん(会員)

「私の幼なじみが河井せんべいを作っていたところのお嬢さんなのよ」

ついに発見!河井せんべいの製造元花垣商店店主・花垣倉三郎氏長女花垣君子さん(昭和六年生まれ、現在78歳)に突撃インタビューを取行!



花垣君子さん(左)と渡辺静江さん

●インタビュー
箱には「花月堂」と「花垣商店」の

二店ありますね

「当初は花月堂(菓子店)で売っていました。母が嫁いできてから花垣商店(洋品店)を営むようにな

り花垣商店でも取扱いを始めたのです。さらに昭和六年の大ブレイクをきっかけに、長岡駅はもろろん大手通商店街のほとんどの店で販売されるようになりました。河井せんべいのおかげでそれはもう豊かな暮らしでしたよ。小学生の私は当時まだ珍しかった自転車に乗り兄と配達したものです」

箱に「カステラ式」とありますが材料は?

「カステラと同じく卵、砂糖、小麦粉、水飴。だから時間が経つとつけて柔らかくなる。それがまた美味しくてわざとしけさせて食べる人も店先で焼いていたので近所の子どもたちがその匂いに集まってきた。すると父は端っこを焼きくずを子どもにあげるんです。香ばしくて美味しくてね」

煎餅には様々な模様があったそうですね

「兜、柏の紋(長岡藩主牧野家紋)、片喰の紋(河井家紋)、五間梯子の四種類。一箱四枚入りと八枚入りがありました。とても大きく食べ応えがありました」

河井せんべい—その後のほなし

「太平洋戦争が始まると物資が統制され材料が手に入らなくなっ

：間もなく河井せんべいは姿を消しました。戦後父は借金までして機械を購入し、もう一度河井せんべいに夢を託しました。ところが色々なお菓子が出来るようになり河井せんべいは好まれなくなったので父も

普通の焼き煎餅を作るようになりました」

なぜお父さんは河井せんべいを?

「家には昔から河井継之助の肖像写真があつて、33歳頃の河井さんと父から聞きました。今思えば父

は河井さんが好きだったのかな。昭和26年頃までは玄関に飾つていてね、いつの間にかどこかへいつてしまいました」

(インタビュー・写真/嘉瀬)

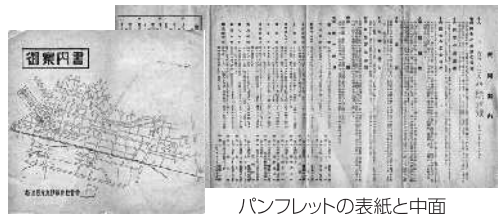


手がかかり ● その参

「御案内書」新潟県産業博覧会協賛会(四つ折パンフレット)

名物土産品 河井せんべい

大型の一種のカステラ煎餅で捨て難き風味がある維新の英傑河井継之助に関係のある紋様を浮出している。製造元 長岡市新町3丁目 花垣倉三郎



パンフレットの表紙と中面

手がかかり ● その四

『長岡歴史辞典』(長岡市/発行)より引用

上越線全通記念博覧会

昭和6年(1931)9月1日の上越線全通開通を記念して、8月21日から9月30日までの41日間にわたって開催された。上中島町(水道町3丁目)の水道水源地一帯を第1会場、寺泊町の水族館を第2会場とし、名誉総裁牧野忠篤、総裁黒崎真也県知事、会長木村清三郎長岡市長のもと全国から1道3府40県、当時日本の植民地であった朝鮮・台湾・樺太なども参加して20余りの展示館が林立。手みやげ品に木目込人形、河井せんべいなどが選定された。

他の土産品としてこんなものを発見! みなさん知っていますか?

- 「越の雪」「大手饅頭」「越後ぜんまい」「長岡味噌漬」「互尊糖」「柿の種」「お山焼」「あけび細工」「角兵衛餅」「飴もなか」「長岡の里」「鋼代編文庫」

手がかかり ● その言

平成12年9月1日に山本光一氏が記した記録

『4枚分並べた鋏状の焼き型で炭火を用いた瓦の形の煎餅である。上越線開通記念の博覧会の土産物として、非常に好評を受けたといわれる。箱と包装紙の図案をはっきり憶えて柏の紋に三間梯子を描き、河井継之助の肖像を刷り込んだ黄色の用紙は裏が白いので戦争中紙不足の子どものノートに利用したという』

手がかかり ● その式

「北越新報」昭和10年11月10日付(第18475号)

河井せんべい 登録認可を獲得

先年当地に於て上越線全通記念博覧会開催に際し長岡みやげとして考案され当時の牧野子爵の推奨と長岡市の認定を得て発売した長岡市新町3丁目花垣商店発売の長岡名物「河井せんべい」は年を追うて声価を加えつつあったが今回登録商標第269110号及び意匠登録第65767号を以て何れも認可を獲得したので一層品質向上に努力しみやげ品に止まらず贈答用として十分の権威と信用を保持すると店主は意気込んでいる。



「北越新報」河井せんべい広告と登録認可の記事



中之島大風合戦であげた風長岡駅前にて

河井継之助はどういう人物？

その⑤ 河井継之助の両親

連載

父は河井代右衛門秋紀と称した。

実は四代目代右衛門の幼名も継之助。河井家は三代から五代まで継之助と称している。因みに初代代右衛門信堅は金七または半助と称し、二代代右衛門秋高は用之助と称している。五代目の秋義は代右衛門を名乗らず、そのまま継之助のまま生涯を閉じたことになる。父の代右衛門は風流を知る人物としても善右衛門、号を小雲・虚白庵と称し、僧良寛とも親交があったという。

代右衛門秋紀は文化七（一八一〇）四月御番入。同十二年小姓となり厩番詰となった。当時の長岡藩主牧野忠精の側近くに仕えた。二十九歳の文政七年に家督を相続した。父・代右衛門は能吏で、継之助が生まれた一年後の文政十一年、火付改役となり頭角をあらわした。そのころの長岡城下の様子を記した「諸診鋪永代帳」が残っているが、それによると、文政十一年の四月ころから、不審火がたびたび起っている。城下は騒然とし、町内では不寝番をたてて警戒にあたっていたが、それでも不審火は

鎮まらなかった。

そこで、藩は家中のなかから若手の有能者四人を選び、火付



河井継之助の妻・すがと母・貞（長岡市立中央図書館蔵）

改役とし、同心六人をつけ、特別警戒にあたることにした。その改役の筆頭に河井代右衛門が選ばれている。やがて、不審火騒ぎは「悪しき者はとがめ手向いする者は切り捨てても良い」とする強権によって鎮静した。この際、代右衛門は風呂営業や髪結などに、より一層の火消しの義務と特権を与えた。この特権は幕末、河井継之助の町政改革によって取り払われるが、父のつくった制度を子が廃止する

のも歴史の皮肉といえよう。

この火付改役から父の出世ははじまり、吟味役、蠟座掛、入役掛など主に民政・主税畑を歩き、天保十一年には藩主牧野忠雅が京都所司代に就任するに伴い京都詰となった。帰藩すると藩財政を握る勘定頭となって、藩を

支えた。六十一歳で隠居。戊辰戦争中は家族とともに山中に逃がれ、河井継之助の妻すがらとともに新政府軍に捕縛された。明治二年に解放後、長岡城下に戻ったが、明治四年四月十四日、七十六歳で病没した。法名を仙寿院峰譽小雲居士。一方、母は貞という。実際は姉と名付けられたが、のちに貞と書いた。禄高百石の近習目付役をつとめていた長谷川健左衛門安明の二女。河井継之助の気質・

気性は、母の貞から受けついでものだとわれている。『河井継之助傳』に「父たりし、小雲の気質を受け継ぎたりといはんよりは、母たる貞子の気象を受け、かつその庭訓に感化せられた」とある。

後年、三間正弘が「算盤などは、その時分の婦人にしては、よほどできたそうです。まあ、御母さんは、婦人では並よりは、よほど超えた所のあった方と思われます」と貞のことを紹介している。榎屋の女将、本間ムツも「河井さんが偉くなったのも、お母さんの気象を受けついで」からだと述懐している。母の貞は明治二十二年三月二十八日病没。享年八十六歳。長岡榮涼寺に葬むる。法名峰寿院操譽妙雲大姉。長姉、いく。禄高百二十石の藩医武回庵に嫁した。母は先妻豊子。藩士西郷助左衛門の女。ただし、いくを出産後没した。



父と親交のあった良寛を紹介している館内パネル

二姉、ふさ。公用人禄高百石の佐野与惣左衛門に嫁す。明治二年五月十八日没す。法名光照院智鑑貞義大姉。佐野ふさは、慶応四年五月の戊辰戦争中に栃尾の山中で没したという説がある。

三姉、千代。弓術師範根岸勝平に嫁す。明治二十六年五月十二日歿す。次弟、健吉。天保五年八月十九日没す。法名秋月示光童子。四妹、安。牧野金蔵に嫁す。昭和三年十二月十八日没す。ほかに幼女、法名梅秀童女がいた。従来、河井継之助の生家は長岡城下同心町にあったとされてきた。しかし、文政年中の長岡城下図や弘化元年（二八四四）の俊治（伊佐俊治）火事類焼図（長岡懐旧雜誌）所収にも、河井代右衛門家が長岡城下長町に存在していた。

この同心町誕生説は、河井継之助の研究者安藤英男氏が主張したもので、今泉鐸次郎の『河井継之助傳』所収の実妹安子の述懐に基いている。「安子の談に曰く」とし、「生家の宅は、私が十三歳の折、同心町よりの出火で焼けましたので、長町へ新築いたしました。兄が重役になってから神田口へ移転しました」からとっている。

（稲川）

「塵壺」を読む

5

連載

富士も見え好風景なり。佐夜の中山も越えた。名所図絵のあるところの名所は、必ず見学しているから、継之助の好奇心は尽きることがない。鰻の多いところとは浜松をさすのだろう。

西上する際、継之助は長岡藩の出身地である三河国牛久保（愛知県豊川市）の近くを通過している。それは東海道の宿場、御油というところで、継之助はそこで一泊している。

御油は今も街道の松並木が残っていて美しいところである。御油の宿場に入ったのは安政六年六月十七日。その朝、浜松を出発し、舞坂、今切の渡しなどを経て、御油に入った。

おそらく、藩主牧野氏とその一党が、戦国時代に割拠した牛久保城趾付近を探索したかったので

あろうが、継之助は旅を急いでいる。

そもそも、長岡藩の原点は、牛久保城時代にある。東三河の領袖となった牧野一族は、西三河の松平党と常に戦った。それは二百年にも及ぶ宿怨となっていた。東三河の牧野氏には駿河の今川氏が後楯となり、松平党は尾張の織田氏との軋轢に苦しんでいた。牧野氏と松平氏（のちの徳川氏）との抗争は、つきることのない戦いを続けていたのである。

牛久保城の壁書があり、その第一条に「常在戦場の四文字」があった。牧野氏の家臣はこの常に戦場に在りという心掛けを大切にし、生活信条としていたのである。それは継之助にも大きな影響を与えており、藩政改革を断行しようとする決断の原点となっている。

おそらく、藩主牧野氏とその一党が、戦国時代に割拠した牛久保城趾付近を探索したかったので



徳川十七将ノ図（長岡市指定文化財）
長岡市立中央図書館蔵

なお、豊川市牛久保の八幡神社には、今も牧野氏の代表である牧野古伯人道成時の善政を讃える、うなこうじ祭が伝わっている。

いつとき牧野氏は、戦国時代、東三河の土豪として、牛久保付近を地盤に、今橋（豊橋）地方まで席捲して、西三河の松平氏と三河の覇権を争ったことがあった。また、背後から、遠江の今川氏にも侵略され、牧野一族滅亡の危機がおとされたこともたびたびある。

戦乱のなか、牧野一族は孤城に独立し、戦禍の辛酸をなめたわけである。その都度、牧野氏はしたたかに生き抜き、その体験をもとに「常在戦場」の精神を培い、後世の長岡藩に伝えてゆくことになるのである。

牧野氏にとって松平氏は宿怨の間柄であった。たとえば、牧野勢と松平清康が下地というところで戦闘した際、牧野氏は決戦を挑もうと城をでて、背水の陣を敷いた。清康は必死の覚悟の牧野勢を察知して、城に兵を入れ「妻子」を人質にとった。そして、その人質を打擲して「啼かなしむ」とした。その哀泣を聞いた牧野勢は、妻子の情にひかれ、決戦を忘れ遮二無二、城へ戻ろうとしたため、多くの武士が弓矢で射殺されたという。家族の犠牲をともなった戦闘は、松平氏を終生の仇敵とし、

激しい怨情を生んだはずである。その牧野氏が永禄八年（一五六五）に、突如として徳川氏に隷属するのである。当時、松平姓から徳川姓にかえた徳川元康（のちの家康）は、三河統一を果たそうとして牧野氏を懐柔し、屈服させたものと思われる。

永禄八年頃、牧野一族を統率していたのは牧野成定であった。翌九年、成定が没すると、多少の内紛があったが、成定の子の康成が相続する。牧野康成は松平（徳川）氏の功臣酒井忠次の幕下に入り、元龜・天正の戦乱に奮闘して、徳川氏の関東移封に伴い、上州大胡二万石を領するに至った。

しかし、慶長五年（一六〇〇）の関が原の戦いの際、上田城攻めで失策し、徳川家康の不興をかい、以後逼迫する。牧野康成は関が原の戦いの恩賞もなく、失意のうちに慶長十四年に没した。

牧野康成の長子忠成は、辛抱の時代に家督を嗣いだ。牧野氏が失墜しているなかで、いかにその立場を立て直すかに腐心したのである。

牧野忠成は、あらゆる功名の機会を狙い、「忠」の諱を賜った二代將軍徳川秀忠の側近となる。慶長十年に秀忠が上洛した際にも従い、秀忠の脇や近辺に近侍した。大坂冬・夏の陣にも先鋒を賜り活躍している。

また、京にあって、所司代板倉勝重とともに対朝廷策の密議をはかったなどの風聞もあり、初期の徳川幕府を陰で支えた一人であった。

その功があったのか、徳川家康が死ぬと、牧野忠成は異数の出世をする。戦国乱世の戦塵もおさまり、戦功による増禄の機会を失った時代に、急激な恩栄をうけるには、牧野忠成の才覚が功を奏したのである。

牧野忠成は三河以来の家臣団を伴って、上州大胡二万石から越後長峰五万石を経て、越後長岡城下七万四千余石の領主となった。もともとも忠成は入封の元和四年（一六一八）に長岡入りをしておらず、その後、寛永に入ってから城下の地を踏むことになる。

その頃、長岡城とその城下町の普請は続行中であつた。牧野は完成をさせず、そのまま工事をやめさせている。忠成は国人入りすると視察を実施し、民政安定を主眼に置き、善政をしいた。「村に女性の多くいるのは豊かな証拠」であるとし、女性を大切に

し、また、敬親が良知の基本であるととし、老人たちをいたわっている。このような施策がのちの改革に影響してくる。

（稲川）

三年前、「八十里越を歩きたい」といって記念館を訪れた高橋さん。以来、「八十里越の高橋さん」というあだ名がついてしまうほどの熱望ぶりだった。このインタビューで国際協力に携わっていたという意外な面を発見した――



「峠」を越えるところ(ついで)

(財)山の暮らし再生機構
十日町里山センター主任支援員 高橋 一馬さん(六十二歳)

アフリカへ

「私は農家の三男坊。貧しかったが食べるに困ることがなかった。そのニーズが信じられなかった」高校生の時、インドで餓死者が出たという新聞記事を見た。「温かく広い国で、一年に何度も作物が収穫できるはずなのになぜだろう」と思つて調べてみると、農業技術の低さやカーブ制に支配されていることがだんだんわかってきた。じゃあそういう国を助ける活動をしよう

かなと思つた」国際協力ほど実現困難なものはない。高橋さんは志を実現した少数派だ。「さうかけはインドだったがアフリカへ行こうと勝手に思つた。若気の至りだね」ところが病気にかかり緊急帰国。「そのうちに歳を食つてね、さうこうしているうちにソマリアに行かないかという誘いがあった。決意してからもう二十年が経つていた」
現地では日本という国を改めて考えさせられた。「日本では当たり前

前の水道水や電気、ガスがない。それは八十里越で野宿するようなもの」一番驚いたのはイスラム教圏で生きる人々の倫理観の強さだった。「イスラム教徒は一日に五回も礼拝する。私は浄土真宗……といっても年に何回も手を合わせない。それから、アフリカでは年配者を敬い、幼子をかわいがる。日本はどうか?」

「ある時村人にこんなことを聞かれた。『世の中には年寄りだけが住む家があるそうだね、あれはなんだい?』ああ、老人ホーム。村の中で老人をケアしている彼らには老人ホームという概念が存在しない。先進国は識字率が高く豊かだが、本当に幸せなのかな」

念願の八十里越

途上国での長い生活は体重とともに体力や免疫力を奪う。「帰国すると日に四百グラムずつ戻るんだ

けど、メタボが気になる年頃だし(笑)」鍛錬のために登山をはじめた。昔読んだ司馬さんの『峠』を思い出し、いつの頃からか継之助が越えた八十里越に思いを馳せるようになった。踏破した館長に道程のすさまじさや体験談を散々聞かされたが、長岡藩敗走の道をいつか歩んでみたいという夢は消えなかった。

「絶対に二人で行つてはいけない」という館長の助言もあり、旧下田村の山岳会のメンバーと歩くチャンスを掴んだ。地元魚沼の八海山、中ノ岳、駒ヶ岳を縦走、さらに剣岳、槍ヶ岳、穂高といった北アルプスの山脈を登つて気力体力ともに著えた。平成二十一年十月二十五日、九時間程かけて吉ヶ平から五味沢まで歩く。「紅葉が最も美しい時期だった」。

二度とないような素晴らしいシチュエーションだった。通過地点のブ



八十里峠道標



八十里越 (写真: 高橋さん提供)

ナ沢には、迷い込んでしまうほどの広大なブナ林が広がっていた。源平の時代、平家から逃れた高倉宮(たかくらのみや)仁王(におう)がそこに隠棲していたことを伝える案内板が道筋に佇んでいた。もつと勉強して行けばよかつた!」と口惜しそうな顔。「山葡萄や猿梨を見つけては先頭になつて採つた。それがまた甘くて美味しい!写真撮つたり食べたりしていると後方の人に『進んでください!』と怒られた」今となつては荒れ果てた道だが、荷駄の往来があつたことを考えれば大八車が通れるくらい立派な道だつたらう。

「天明・天保の大飢饉の時に越後から救援米が輸送されたというから、ガトリング砲が通つた可能性は十二分にある」高橋さんは推測する。「長岡城落城を受け、藩主もこの道を通り落ち延びたから、それなりの財産をとにも運んだらう。道中に御用金を埋めたというからロマンが広がる。今度は八十里越埋蔵金でも探索しようか……」

「継之助が『八十里こし抜け武士の越す峠』という句を詠んだ所を通つた。無念の思いで通つたと思ふとやりきれない」越後からの敗走は八月一日から七日にかけてが最多であった。奥羽越同盟軍や長岡藩士とその家族、人夫を合わせれば八千人ともいわれる。「お世話になつた『八十里越を歩く会』のメン

パーはもう並の人ではない。歩きながら解説までしてくれるから相当な健脚だ。草ぼうぼうの道を事前

『当日時間の関係で行けなかった木の根峠の分水嶺から先の会津側

会員の声

●「リストサムライ」

サムライの時代の終焉を見透かす眼力を持ちながら、自ら信ずるところの義を貫きサムライとして散って

歩く姿さえ目に浮かぶほどでした。道辺に立つ『史跡八十里越』の道

高橋馬（たかはし かずま）プロフィール 昭和29年、新潟県上野村（現十日町市）に生ま

山田方谷（やまだ たかや） 岡山県に人名を付した駅があること

「会員の声」大募集！

として後世にのみがえらせた「一要因でもある」と考へる。 竹間光太郎（東京都文京区）

して司馬遼太郎の「峠」に出会ったことで、河井継之助も山田方谷に学

●小千谷の河井史跡

英傑河井継之助及び彼が指揮した戊辰戦争の史跡が、戦火を二度受け

●河井様の両眼

河井継之助の批評はいろいろと聞いてきたが、私の思いは少年時代父

「会員の声」大募集！

原稿は二百字以内（題名、氏名は字数外、事務局までお送りください。

遠方からの客人

●インタビュー⑤ ブーツを履いているあなたに...



平成22年1月24日（日）

中、ここはともにもじんまりして

加島哲夫さん（60歳）・恵三子さん

どちらから？

「埼玉県です。色んな土地や記念館等を夫婦でよく回っています。

「建物がすごく大きい館がある

（インタビュー／神保）



●記念館オリジナルポストカード販売中！（5枚組、パッケージ付500円）郵送も承ります。

●平成22年度 総会・講演会・懇親会のご案内 日時：4月24日（土）午後2時から

- 司馬遼太郎著「峠」を読む会 毎月第3月曜日 午後6時30分～8時
●河井継之助旅日記「塵壺」を読み解く会 毎週土曜日 午後1時～3時
●今泉鏗次郎著「河井継之助傳」を読む会 第2・4月曜日 午後1時～3時
●楽しい詩吟教室：第1・3月曜日 午前10時～11時30分

●開館三周年記念講演会開催(十二月二十七日)
 旧ホテルニューオータニ長岡NCホール



講演会のキーワードはあの激動の時代に生き残った人々が大切にしていた『志』。これからの時代に生きる子どもたちに志をもつことを教えていくべきだという話の中で、松陰の教えを学校教育に取り入れていく萩市立明倫小学校(旧長州藩藩校明倫館)の事例を紹介。児童は六年間で十八の言葉を学びます。例えば三年生二期には「志を立ててもって万事の源となす 書を読みて聖賢の訓をかんがう」という言葉を毎朝朗唱するそうです。松陰の書いたものを継之助が筆写したと伝えられている写本が残っていますが、もしそうであるなら継之助は松陰から何かを得ようとしたのではないかと一坂さんは考察します。「日本人が忘れてしまったものを今日思い出すことができた」という声が会場のあちこちから聞こえました。

『十二月二十七日』というのは記念館が開館した日であり、且つ継之助が大志を抱き再度江戸へ旅立った日にあたります。この記念日を祝おうと全国から約四百名が長岡に参集しました。講師は精力的に著作や講演活動を行っている幕末維新史研究家の一坂太郎さん。「継之助も学んだ『松陰学』」と題して講演されました。幕末のすさまじいエネルギーの中吉田松陰や坂本龍馬、勝海舟、そして河井継之助らはたとえ小さな藩の人間であっても自分がこれからの世の中を動かす、この国を変えるのは自分なんだという強い信念や志を持ち時代に立ち向かったことを熱く語りました。

同時開催された特別対談「幕末の銃器とガトリング砲」ではお馴染みの内山弘さんと星貴さんがガトリング砲をはじめとする幕末に使用された銃器の変遷や逸話等、映像を用いながら熱いトークを繰り広げました。内山さんによる「ファウルプラントー継之助にガトリング砲を売った男」は会報六号に、星さんが会場で語り尽くせなかった思いは巻頭に掲載されています。また、三周年を祝し1/5スケールのガトリング砲(複製・旭精機株式会社、有限会社とみしま製作、株式会社広井機三社共同制作)が寄贈されました。記念館に展示していますのでぜひご来館ください。(神保)

河井継之助記念館 友の会について

会員の交流や情報交換を通して継之助について親しみ、学び、記念館を応援する会です。

●会員数／正会員：483名／協賛会員：72名(3/1現在)

会員募集中

●特典／①友の会会報「峠」配付
 ②会員との交流 ③催事案内・参加 ④研修旅行への案内・参加

●入会手続き
 ①申込書に会費を添えて、事務局へ持参。
 ②申込書を事務局へ送り(郵送、FAX)、会費は銀行振込または郵便振込で納入。(手数料は本人負担となります)

●年会費 ※会計年度は3月31日まで
 ①正会員/(ア)小・中学生:500円 (イ)高校生以上:2千円
 ②協賛会員/一口5千円(法人の他、個人でも可)

●口座について
 ・加入者名／河井継之助記念館友の会
 ・口座番号／郵便局 00560—9—96432
 長岡信用金庫関東町支店 普1032829
 北越銀行本店 普1764663
 大光銀行本店 普3011256
 第四銀行長岡営業部 普1560562

●友の会事務局／河井継之助記念館

友の会ホームページアドレス <http://tsuginosuke.net/>

新入会員ご紹介

(平成22年3月1日現在)

石原直次郎	新潟県長岡市	佐藤 広美	福島県河沼郡	西川 里美	新潟県長岡市
白井 崇秀	栃木県宇都宮市	鈴木 三吉	新潟県長岡市	畑中 完仁	京都府城陽市
小川 和雄	新潟県長岡市	清野こすえ	福島県耶麻郡	坂内 誠志	福島県若松市
加藤 智子	新潟県長岡市	高橋 敬一	新潟県長岡市	星野 勝男	新潟県長岡市
金子 光次	新潟県見附市	竹間光太郎	東京都文京区	皆川 漢司	新潟県長岡市
河井 正安	東京都三鷹市	土田 明典	新潟県長岡市	峰村 哲也	新潟県長岡市
近藤 健	新潟県新潟市	長岡商工会議所	新潟県長岡市	和田 海英	新潟県長岡市
佐藤 謙次	新潟県長岡市	中島 達也	岐阜県下呂市		
佐藤 敏文	新潟県長岡市	中村 正司	新潟県長岡市		

以上25名(アイウエオ順・敬称略)

編集後記

●雛人形を見ると雪があつても「春が来た」と浮かれるのは私だけだろうか。母から子へ代々大切にされてきた「おにんぎよさま」が市内各所に展示され、路行く人々は足を止め雅な世界に暫し思いを馳せる。記念館では江戸時代与板藩主から贈られた雛人形が展示された。この人形はどんな時を経て来たのだろうか？

館内に目をやると継之助の肖像写真がこちらを見ている。何を語り問いかけたのか。私達はこの人から何を吸収するのか。一瞬、彼が鼻を鳴らして「ヤ」と笑った気がした。会報から少しでも「なぜ?」「知りたい」の扉を開くお手伝いができたらと願い、二十一年度締めめの号をおくりします。(伊佐)



記念館庭に咲いたフキノトウ

編集人・稲川明雄 嘉瀬宏美 榊澤幸子
 伊佐春美 神保智子 西川里美
 構成・月刊マイスキップ編集部
 印刷・高速印刷株式会社